

知的財産事例

株式会社The MOT Company

トライアンドエラーで、新たな技術に挑戦 開発技術をライセンスとして世界へ！

事業内容

自動車部品、宇宙・飛行機部品、情報機器部品、医療機器部品等のプレス加工技術の開発

「CFRP加工技術開発プロジェクト」を基盤とした日本初CFRP量産加工技術の開発
※CFRP=炭素繊維強化プラスチック

知的財産権と内容

特許第6656702号	繊維強化樹脂成形品の製造方法
特許第6712430号	熱可塑性繊維強化樹脂成形品の製造方法
特許第6764179号	金型
特許第7121431号	高压タンク及びその製造方法
商標登録第6401356号	Press Magic

他 特許権 国内18件、海外(中国・米国)7件、商標権4件

(2023年10月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



CEO 済藤 友明 さん

ものづくりの情熱は会社の成長へ ～株式会社The MOT Company～

東京蒲田の一角に、世界最高の加工技術を持つ中小企業と連携し、日本初のCFRP（炭素繊維強化プラスチック）量産加工技術の開発を行う当社。「量産加工技術を世界に発信したい」という済藤CEOの想いのもと、2014年に創業した。これまでに、日本の民間ロケットとして初めて宇宙空間へ到達したMOM03号の部品を開発するなど、数多くの宇宙産業部品を製造してきた実績がある。また、現在は自動車メーカー向けに軽量化量産技術の開発を行う。元東京理科大学専門職大学院教授の肩書を持つ済藤CEOは、自社業務の他に、日本モノづくり学会代表理事も務め、ものづくりの技術発展に向けた活動に尽力してきた。ものづくりに対する情熱とともに新たなプレス加工技術の開発を続けている企業である。

自社の技術をビジネスツールへ ～初めての特許取得～

当社が初めて特許取得をしたのは、自社のプレス成形技術を申請したことが始まりだった。開発製品の量産用に、大規模な工場等を持つことは得策ではないと考えていた済藤CEO。2014年の設立当初から、専門技術を開発し、特許を取得してライセンスを譲渡するビジネスモデルの展開を考えていた。そのため済藤CEOは、設立の1年後には自身が発明したアイデアを弁理士に相談。

その後具現化したアイデアをもとに、2016年初めて特許を申請し、無事に登録。以降、当社は毎年自社技術の特許申請を続けており、開発段階から弁理士に相談することで、知財の早期取得の体制を構築した。済藤CEOは「自社でものづくりを行うのではなく、特許を取得した技術を譲渡することで、様々な製品の量産化に貢献したい」と語る。この考えのもと、現在はEV、FCV社会に貢献するため、自社で取得した特許を譲渡するビジネスモデルを展開している。また、当社はこのビジネスモデルを活かし、日本にとどまらず海外進出を果たしている。

技術開発で大切にしていること

当社はプレス加工や成形の技術を数多く開発しているが、現在、開発者としてその技術開発の中心を担っているのはプレス加工が素人だった社員。この社員は済藤CEOが教授を務めていた大学の教え子で、大学で学んだことを技術開発に活かしたいという想いを抱いて入社した。済藤CEOと開発者が常に共有していることとして「技術開発はトライアンドエラーの繰り返し」という考え方がある。技術開発は失敗がつきものであり、失敗した経験を活かすことで新しい技術が生まれる。こうした失敗を積み重ねながら、新たな技術にチャレンジできる環境があるからこそ、特許となる技術が数多く生まれている。このような会社の“攻め”の姿勢

が知財取得においても重要なポイントとなっている。

知財取得における苦悩



特許技術を開発し、他社へライセンスを譲渡するビジネスモデルの展開を図る当社。その後の知財活用においては苦悩もあるという。これまで国内外問わず特許申請を行い、認定されてきたが、自社が提唱する特許技術を他社に採用してもらいライセンス譲渡のビジネスモデルは、理解されないことが多いという。これまで、中国、フランス、イタリアなど様々な国の展示会に出展するなど、済藤CEO自ら特許技術をアピールしても、なかなかライセンス譲渡の契約には至らなかった。そこで営業方針を変更し、現在は海外向けライセンス販売を得意とする代理店やエージェントも活用しながら海外向けの販路開拓を強化している。

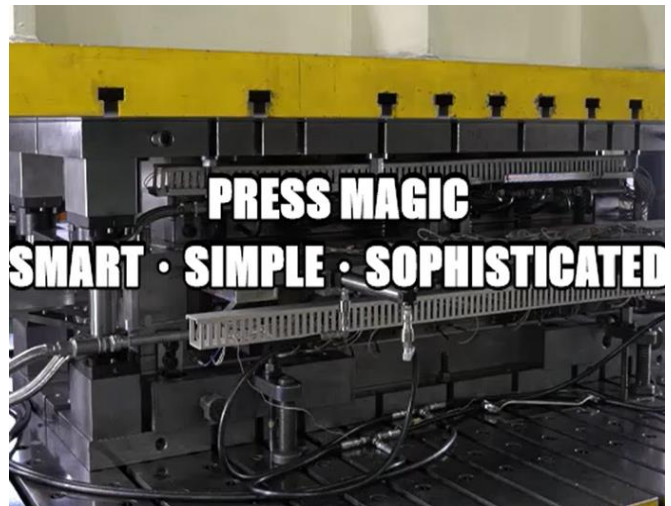


材料を金型に入れる作業

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「簡単に作れてしまうものは特許として認められるものではない。特許取得を目指すには自身の技術に誇りを持つことが大切。技術開発においては失敗した経験を蓄積し、より良いものを実現する。この姿勢こそ誰にも真似できない技術を生み出し続けている要因だ」と済藤CEOは語った。また、ユーザーニーズに目を向けることも大事だという。これまで制作してきたロケットの部品や、自動車部品の加工は、実際にユーザー目線で感じた課題をもとに作ったものである。ユーザー目線でニーズに応える製品製造を行ったことと、納得するまで挑戦し続けられる社内体制を構築したからこそ、数多くの特許を生み出すことに成功した。「特許創出には、プロセス技術においてどこを『省く』かを見極めることも重要であり、それこそが量産技術の肝である」と語る。



プレス成形の商標登録：press magic



知的財産活用のポイント

自社ライセンスの販売で販路開拓を目指す！

「自社が開発した技術を海外に展開したい」という強い想いがあった一方で、製品の大量生産が可能な自社工場を持つことは難しいと考えていた済藤CEO。この状況下で生まれたビジネスモデルが、現在のライセンス譲渡ビジネスであった。知的財産権

は、それを生かして製品を作るだけではない。そのことにいち早く気づき、「こだわり」の精神をもとに自社技術を追求しながら、ビジネス展開をしているのが当社である。済藤CEOは今後、中国やイタリアの自動車業界に参入する布石を打ったと語る。今後も当社の開発技術が、世界標準の“ライセンス”としてゼロエミッションを牽引していくことが期待される。

COMPANY DATA

取材：2023年10月

企業名：株式会社The MOT Company 所在地：東京都大田区蒲田5-30-1-701 電話番号：03-6715-9624

URL：<https://www.mot-company.com/> 創業：2014年1月 資本金：9000万円 従業員：5名

